

観察記録ノート

昆虫類

テングチョウの越冬記録

井原道夫

テングチョウ *Libythea celtis* はどこにでもいるチョウでありながら、これまで越冬についての観察記録はほとんどないと思われる。

筆者は、1996年11月7日にチャの茂みに飛び込んで小枝に静止し、そのままそこで夜間を過ごすのを観察したこと、1997年2月19日にはチャの株を棒でたたいて刺激を与えたところ成虫が飛び出したことなどの観察経験から、日当たりのよい南向きの斜面に点在しているチャの株が、越冬場所の一つとなっているのではないかという確信を持っていた。しかし、実際に越冬している成虫を見つけることはできずにいた。

2007年1月30日に下條村山田河内と阿南町和知野で、越冬中の成虫確認と静止場所に至るまでの行動の一部を観察することができた。

下條村山田河内では、チャの株に刺激を与えたところ成虫が飛び出した。その付近にチャの株を注意深く探し、越冬中の成虫2個体(A・B)を確認することができた。

ともに傾斜地に生えていたチャの小枝下側に静止していた。地上高180cmと70cm。小枝の色と、裏面の模様がよくマッチしており、見事な保護色となっていた。2月1日に駒ヶ根市の安田守氏と同地で、再調査をして2個体(C・D)を追加確認することができた。1株に2個体がほぼ並んだ状態で静止していた(写真2)。静止場所の地上高は約30cmであった。

その後、2月7日・26日、3月2日に追跡調査をした。結果は、C、Dの2個体は2月7日には行方不明に、B個体は2月26日には行方不明になっていた。暖かい日が続いたときに飛び出したと思われる。A



写真1 テングチョウの越冬を確認したチャの群落

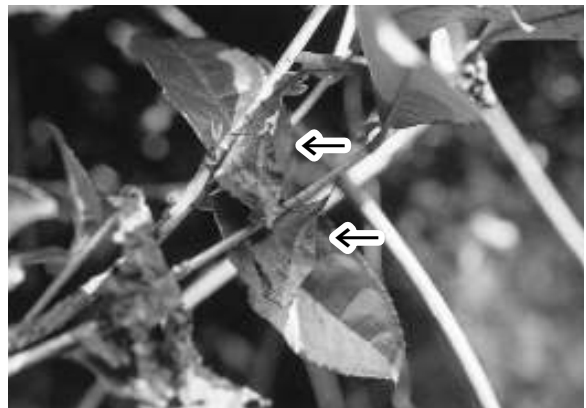


写真2 枝にとまって越冬中のテングチョウ成虫 (←)

個体については3月2日まで同じ位置で確認できた。

茂みの奥まったところ、表面に近い場所などによって活動開始の時期にずれが生じたと思われる。

阿南町和知野でも、下條村と同様チャの株をたたいたところ成虫が飛び出した。この成虫はしばらく翅を開いて日光浴をした後、近くのチャの葉上に止まり、移動して葉柄あるいは小枝の下側に静止した。その場所が気に入らなかったときは、以上の行動を繰り返した。1996年11月のときとは少し異なる行動であった。その時の外気温によってチャの茂みへの進入方法が異なったものと思われる。

(いはら みちお／飯田市上郷黒田571)